

後期学校評価アンケート（保護者）自由記述欄へのご意見

- ・勉強面だけでなく、子どもたちの成長につながるような様々な取り組み(TCAW プロジェクト、職業体験など)において、先生方が子どもたちを応援して下さるので、子どもたちは充実した学校生活を送れていると思います。ありがとうございます。

励みになるお言葉をいただき、感謝感激です。TCAW プロにつきましては、今年度新たな挑戦で、さらに充実させることが可能な取組だと感じております。来年度も、多少の改善を加え、継続したいと考えております。

- ・いつもありがとうございます。

卒業が近づき、親としてもさみしい気持ちではあるのですが、卒業式の合唱が今からとても楽しみです。

こちらこそ、いつも何かとご支援いただきましてありがとうございます。卒業式の合唱曲につきましては、生徒たちの希望により決定しているようです。温かい卒業式になりますよう努めて参ります。

- ・1 月終わりの学年通信について。気持ち的に 少しひっかかっています...(スカートたけ他の内容)

学年通信について、不快な思いをされたのであれば申し訳ございません。学校から発行する文書の最終責任者である私の責任です。TP0 を考えた服装や着こなしをすることの大切さや、自身の服装や着こなしを他者がどのように受け取るかについて、様々な受け取り方がされることを理解してほしいと生徒の皆さんに伝えたかったのですが、選んだ事例や書きぶりに配慮が不足していたことを反省しております。

TP0 を考えるという部分において、個人的には、「その場所にふさわしいスカート丈とはどの程度のものなのかと考えること」自体を必要とする場所として、生徒たちが、学校のことをとらえているかどうかを考慮する必要があると考えております。もちろん、「家にいる時にふさわしいスカート丈は？」などと考えることはしないでしょし、考える必要もありません。それでは学校という場所についてはどうなのか？「学校という公共の場にふさわしいスカート丈があるでしょ」と声高々に言ったとしても、その「ふさわしさ」の程度の基準は個人に委ねられることを理解した上で指導をする必要があると考えています。「スカート丈についてなぜ指導しないのか」という保護者の方の指摘も少なくはないところですし、教職員にも多様な意見が存在します。本校の決まりである「私たちの心がまえと決まり」に示す「スカートの長さは膝の真ん中くらいとし、極端に長いもの・短いものは避けましょう。」については、毎年、生徒たちの手で見直しを図る機会を設けている、言わば自分たちが決めた心がまえであり、決まりです。学校生活を送る上で、その心がまえや決まりを意識することの大切さは今後も指導し続けていく必要があると考えています。

- ・教科のワークについて。次年度もすべての教科廃止を継続されますか。
- ・今年度ワークを無くしてみてどうだったのか、検証結果を公表してほしいです。
- ・ワークがなくなってすごく不便です。希望者のみ購入でもいいので検討してほしいです。塾でも回りの中学と差がついていると指摘されています。前向きに検討いただきたいです。

ワークについては前期の学校評価の際にも指摘があり、私なりの返答を記載させていただきました。保護者負担による副読本（ワーク等のこと）の購入を取りやめた理由については、教育委員会からの指導等も含め、いくつか挙げられます。その中で私の判断理由は、以下の通りです。

- ① 授業中に使う割合は副読本全体の1～2割程度である。ほとんど学校では使わないのなら、保護者負担で購入を強いることを回避すべき（「学校で使わないのなら、買う必要なし」との保護者の声はこれまでもあった）。
- ② 学校として授業改善に取り組んでおり、副読本を解き進める授業というものは授業改善の先にある授業のイメージとは一致しないため、求める授業にどうしても必要というわけではない。授業で必要な問題は教員が準備する（義務教育は無償という憲法の理念に近づける）べき。
- ③ ①②のことを鑑みた時、これまでがそうであったように、授業で取り扱わない部分は家庭での課題とされ、提出を要求する形となる。保護者負担で言わば強制的に購入いただいているため、①で示したように「使わないのなら買う必要なし」とならないためにもさせないままで放っておくわけにはいかない。
- ④ 家庭での課題として提出を求める場合、生徒たちは、これまでもそうであったが、提出すること自体を目標とした取組方をする場合が多い。力にならないのと同時に主体性を奪う結果になりかねない。家庭学習に主体的に取り組める形を探りたい。
- ⑤ 家庭学習の課題となることが明白な中、生徒一人一人に合っているとは言えない、教員が一方向的に決めた副読本を保護者負担で購入いただくことから回避したい。ニーズに合った教材が選択可能となる。
- ⑥ 教育委員会が指定する家庭学習教材が複数あり、それについても保護者負担がされているが、学校には採用・不採用の選択権がないため、それらの活用を進めるべき（学習支援プログラムの予習・復習シートや東書 Web ライブラリー、ドリルパーク等。特にドリルパークは自身の力にあった問題が提供される利点がある）
- ⑦ 勉強が苦手な生徒に対して、家庭学習課題として自力で問題を解いて提出することの心理的負担を強いることを回避したい。ニーズに合った教材で、提出に関しても個にあった形を模索したい。
- ⑧ 「〇ページから〇ページまでやって提出」という何十年も続いている「宿題」の形から自ら課題を選択・設定して臨む「家庭学習」への転換を図る。

ここまで、授業ではあまり使わない、また、今後の授業改善においても必須とはならない副読本を保護者負担で言わば強制的に購入していただく形を取りやめた判断理由について説明してまいりましたが、保護者の方や生徒の皆さんからの意見の本質は、「家で勉強する材料がなくなったため、復活していただけないか」といったものかと推察いたします。当初より、ワークが必要な場合には、書店やインターネット等で購入していただくこと等を含め、提案はさせていただいておりましたが、ポイントは、学校で用意をして欲しいということかと思えます。上記で示した理由から、保護者負担で全員言わば強制的に同一のものを購入していただく形は好ましくないと考えておりますが、学校が間に入る形で希望購入の形をとる方向を来年度は考えております。詳細は業者との折衝が必要となりますので、新年度になってからご案内できればと考えております。よろしくお願いいたします。

- ・”先生という立場で、子供（生徒）のことを親身になって関わっていただいていると思います。

「親身になって」という言葉をいただき大変うれしく思っております。先生と呼ばれる職業のやりがいをあらためて感じさせていただきました。ありがとうございました。

- ・家庭と学校というかそれぞれの性質に合わせた関わりを、家庭とやりとりを交えながら丁寧にしてくださっています”

学校・家庭・地域が一体となって子供を育むことが求められている中で、そのように感じていただいていることに喜びを隠しきれません。ご家庭の協力があってのことです。いつも丁寧にご対応いただきありがとうございます。

- ・いつも大変お世話になりありがとうございます。

こちらこそ、ありがとうございます。教員不足が言われ始めてしばらく経ちますが、教員にやりがいを感じさせていただけが一番のものは、生徒や保護者からの感謝の言葉だと言われております。現役の教員がやりがいを感じ、それを発信していけば、教員になることに躊躇している若者が再び教員を志望することにつながると考えております。現任教員がやりがいを感じることをできる言葉をいただき、教員不足解消の一助をいただいたことに御礼申し上げます。

- ・学校を休んでいた後の授業について、もう少しフォローがあればいいと思う。休んでた分のプリントを渡されて終わり。中学生は自主的に聞きに行かないと教えてもらえないのでしょうか？先生から何か一言でもフォローする言葉かけがあればいいのと思います。

生徒を気遣う言葉、休んだ日の学習への不安を案ずる言葉かけは大切にしたいと考えております。一言もフォローする言葉かけがなかったとすれば、私としても残念です。

気持ちはあってもその機会を逸する経験は私も何度もあり、教科担任制で毎日そのクラスの授業があるわけではない形のため、声をかける機会を逸することについては寛容に受け入れていただければとは願いつつ、機会を逸することなく声かけをするよう意識を高めていきたいと思います。休んだ日の学習への不安等についてはお子様の方からも声を発していただくよう背中をおしていただければ幸いです。教員も喜んで時間を取るはずです。

- ・3年間ありがとうございました。のびのびと、子供らしく、楽しそうに過ごせていたように思います。ホームページの写真もうれしかったです。

そのように受け止めていただいていることに、感謝の気持ちでいっぱいです。ホームページに関しては「楽しそう」な表情を保護者の方にお伝えするために活用していると言っても過言ではありません。「写真撮って！ホームページ載せてね！」という生徒の言葉にも背中を押されつつ続けております。卒業まであとわずかとなりましたが、生徒の良い表情がお伝えできる「表情の見えるホームページ」となるよう努めて参ります。

- ・いつも生徒たち、学校のためにご尽力くださっている先生方に感謝申し上げます。

本当に力が出る、元気が出る言葉をありがとうございます。とても励みになります。今後とも温かいご支援を賜りますようお願いいたします。

- ・いつも楽しく通わせてもらって、感謝しております。
- ・楽しく通学しており、ありがたいです。

「楽しく通っている」という言葉に安堵する気持ちを与えていただきました。生徒の皆さんが「通いたい」と思うにはどうあるべきかということに悩みながらの毎日ですが、そのように言っていただけたことにホッとさせていただいたというのが正直なところ です。ありがとうございました。

- ・校則については、文句を言うことがありますが、それも反抗期の一つかなと試みています。

お子様の思春期の状態を温かく見守っていただいていることに敬意を感じております。現在の「私たちの心がまえと決まり」については、毎年、生徒会本部や学活等において生徒たちの手で見直しを図る機会を設けている、言わば自分たちが決めた心がまえであり、決まりです。そのこともあって、不満を持ちながらも心がまえや約束を守ろうとしてくれているのではないかと試みてこの文章を読ませていただきました。

- ・仲の良い友達にも恵まれ、とても充実しているように見えます。ありがとうございます。

友達の存在に助けられ、毎日が充実していると感じておられることを嬉しく思い、安

堵しております。既に記載しておりますとおり、教職員がこのように感謝の言葉をいただくことでやりがいやモチベーションを維持できている部分が多分にあります。そのように支えていただいておりますことに感謝の気持ちでいっぱいです。

- ・いつもありがとうございます。中学生になって、小学校とは打って変わって自主性を重んじる環境に驚きつつ、ありがたいな、と思っています。

自主性を重んじていると受け取っていただいていることを素直に喜ばせていただきました。ありがとうございます。「自主性とは言いつつも放任している状態」と指摘されることのないよう生徒たちとは誠実に向き合いたいと考えております。これからも温かいご支援をよろしくお願いいたします。

- ・3点、意見させていただきたいことがあります。

1、小中連携しての教育目標に関して

包括的性教育に重点を置いてほしいです。小学校から中学にかけて、連携してできない取り組みじゃないかと思います。自分の子ども通して、親としても男の子の性教育が非常にだいじだと感じています。女子に対する教育は進んできていると感じますが、男子は、ホモソーシャル的組織のなかで、生きづらさを感じる人が多いのではないかと感じます。学校で起こるいじめやトラブルも、こういった視点が抜けているように感じます。男子への教育（男らしさとかそういう旧来的なものに縛られなくてもいい）が、ひいてはすべてのジェンダーの子どもたちが生きやすくなる足がかりになるんじゃないかと感じます。

ご意見ありがとうございます。今年の1年生の人権教育ではご本人がトランスジェンダーである講師の方をお招きし、LGBTQについて学ぶ機会を設けました。生きづらさを感じる中にジェンダーに関する背景がある生徒もいます。記載いただいておりますように「すべてのジェンダーの子どもたちが生きやすくなる」ことをめざし、小学校とも連携を図りながら性に関する指導を進めて参りたいと思います。

- #### 2、以前から気になっていましたが、制服を購入する時に、男子はスカートを選択できることが掲載されていないことです。実際に選ぶ子はいなかったり他にも懸念されることがあるのですが、「選択肢を提示しない」ことは、大人からの「スカートは許さない」という一方的なメッセージと受け取れ兼ねないな、とも思います。改善できるかご検討いただきたいです。

ご意見ありがとうございます。現在高野中学校にある標準服の申込用紙を見直しましたが、「女子はズボンを選択できる」といった文言も掲載されておりません。ご指摘の通り、「男子はスカートも選択できる」という記載もございません。女子は…、男子は…という制限を加える記載はどちらも見当たりません。「女子にはズボン着用可の記

載があるのに、男子にはスカート着用可の記載がない」とのご指摘かと思ったのですが、女子に関しても記載がないことから、「男子には、特に、『スカート着用可』と明記するように」とのご意見でしょうか。本校にある申込用紙と別のものをご覧になられて、「女子はズボン可」の記載があるにもかかわらず、男子には「スカート可」の記載がないようでしたらご指摘通り不適切だと思います。結論を申し上げますと、ズボンとスカートの着用を性別によって制限を加えるものではありませんのでよろしくお願いいたします。制服採寸の際に男女別の場所で採寸されるため、一方的なメッセージとして「男子はズボン以外は認めない」と受け取られたのかなとも推測いたしました。小学校で配布された用紙や採寸時の様子については情報がございませんので、十分な返答ができずに申し訳ございません。

3、学年だよりで女子のスカートの短さを「恥ずかしい」と思われる先生の文章がありました。先生のおっしゃりたいことすごくよくわかります。ただ、非常に気持ち悪く思ったことは、「スカートが短い学校ですよ」と声をかけた他校の先生方がいることです。「寛容ですね」という意味なんだろうと思いますが、なんだかモヤッとします。スカートの長さに関して、「かっこいいからやるのか、かっこよさってそれなのか」という問いが先生からありました。それ自体は前向きな問いだと感じます。先生の考えも伝わります。ただ、せつかくの問いを生徒に考えさせる余地を残さない言葉が気になりました。なんでスカート短いとだめなのか、受験でも好意的に見られないのか、校則でなぜだめだとされているのか、生徒が考えるいい機会だと思います。「社会的に見苦しい」「恥ずかしい」と大人（主に男性じゃないかと思いますが）の考えを押し付けるのではなく、生徒と先生が思い切り議論することができる絶好の機会にしてほしいな、と思います。男子も女子も、一緒に考えてほしい。個人的には、「スカート短いとこですよ」という発言をされた他校の先生こそ、スカート短いのなんであかんのかな、と考えてみられたらどうかな、と感じました。

「スカートが短い学校ですよ」と声をかけた他校の教員に対する思いに私も共感いたしました。ご指摘いただきました通り、問いを生徒に考えさせる余地を残さず、「スカートが短いことはダメなこと」と断言する形の書きぶりになってしまったことは事実です。学校から発行する配布物の最終責任者として私の非を反省しております。既出のご意見への回答として記載させていただきましたが、TPO を考えた服装や着こなしをすることの大切さや、自身の服装や着こなしを他者がどのように受け取るかについて、様々な受け取り方がされることを理解した上で判断してほしいと生徒の皆さんに伝えたかったところではございますが、不快に感じさせてしまったことについてお詫びいたします。

- ・前時代的な教育から進歩が見られない気がする。生徒の主体性を謳ってはいるが、結局、学校側の管理しやすさ（コストパフォーマンス）を重視しているように感じられる。制服について、ようやく女子生徒はスカートとズボンが選択できるようになったが、男子生徒は未だにズボンしか選べないのはなぜでしょうか。たとえスカートを選ぶ生徒がないにせよ、選択肢としてスカートがある、という事が大切ではないかと思います。”

非常に言いにくいことを記載いただいたのではないのでしょうか。貴重なご意見ありがとうございます。男子生徒のスカートの件は、既出のご意見への回答として記載させていただいておりますので、ここでは省かせていただきますが、「生徒の主体性を謳ってはいるが、結局、学校側の管理しやすさ（コストパフォーマンス）を重視しているように感じられる」とのご意見については、どのような部分からそのような感じになられているかをお伺いできたらと率直に思いました。管理責任は学校としては求められる部分ですので、教員数が限られている中、管理のしやすさを追求する部分は多少なりともございます。しかしながらご指摘いただいているのは、それとは異なる視点から管理主義だと感じておられるところがあることかと推察いたしますので、またお聞かせいただき改善できる部分を改めたいと思います。よろしくお願いいたします。

以上、自由記述欄に記載いただいたもののうち、書かれた方が特定される可能性のあるものや、記載された対象者が特定される可能性のあるものを除き掲載させていただきました。お時間を取って記載いただきましたことに心より感謝申し上げます。今後とも、お気づきになったことは遠慮なくお知らせいただけましたら幸甚です。高野中学校教育の改善に生かして参ります。よろしくお願いいたします。

最後に、大変申し上げにくいことではありますが、特定の教職員への誹謗中傷とも取れる内容が記載されることがありました。SNS等で問題になっていることとも重なりますが、ご本人は正しいことを書いているとの思いでいらっしゃるのかとは思いますが、読む本人そして学校の全教職員の心が傷つけられます。学校体制的な内容に対するご指摘につきましては、たとえ厳しい内容であっても、今後の改善点を模索するための意見ととらえ、真摯に受け止めていく覚悟ではありますが、個人に対する、攻撃ともとれる内容は慎んでいただきますよう何卒お願いいたします。「記名式だと書きたいことが書けない」という意見もあり、無記名での記載とさせていただいておりますが、今後は記名をしていただいた上で、責任あるご指摘をしていただくことや、自由記述欄自体をなくすことも検討せざるを得ないと考えております。当人に何かしら不手際があったの記載であったとしても、教職員を誹謗中傷から守る責任は校長である私にあると思っておりますので、検討した結果下した判断につきましてはご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。

校長 上野 政弘